

<下総委員のご意見>

令和 8 年 3 月 23 日 (月)

第 2 回県立施設運営活性化懇談会

- ・ 高知県立牧野植物園は、日本の植物分類学の父・牧野富太郎博士の業績を顕彰するために設置された植物園で、現在、その運営は設立目的に「牧野富太郎博士の業績を顕彰し、植物知識の普及と自然愛護の精神を育むこと」を掲げている（公財）高知県牧野記念財団が担っている。
- ・ ハードと運営が理想的な関係性で運営されていると考えられるが、今回提出された自律性向上計画において、「財団にとって最も大切かつ必要な財産は「人材」であり、「人材の確保、育成、定着」と「財団で働く職員の幸せ」を目指す」とされている。
- ・ これらを実現するために、「来園者増に努め、併せて有料ガイドを実施して「処遇の改善」や「働きやすい職場環境づくり」に資する財源として活用する」とされている。
- ・ これについては共感できるが、まだ途上であると認識しており、これからも不断の取組を続けてもらいたい。
- ・ 以下に、「第三者による時間外営業」の事例を紹介するので、これらも参考にいただければと考えている。

○大阪市長居植物園

サッカースタジアム等がある長居公園の中に植物園があり、夜も賑わいを広めようと、指定管理者が事業者を探し、大阪市の許可を得てライトアップ等を実施している。2022 年 7 月から常設夜間開園を実施し、2023 年度年間入園者数は 120 万人（うち夜間来場 40 万人）である。

※この事業者は、高知城のライトアップも手掛けている（2019 年 11 月 8 日～2020 年 1 月 13 日）

○京都府立植物園

開園 100 周年記念事業として温室の特別夜間開園を行う「LIGHT CYCLES KYOTO」（ライトサイクルキョウト）を実施（2024 年 10 月 18 日～12 月 26 日）。

- ・ 上記の事例は、今回の計画(案)の 2 (1)に記載のある「お客様に特別な価値を感じていただけるツアーの受入れに向けた取組」に類似するものとする。
- ・ 現在すでに取り組まれている「夜の植物園」や「桜の宵」などの夜間開園イベント等の内容をバージョンアップして実施する方法もあるのではないかと考える。
- ・ いきなり大きな事業やイベントを立ち上げることはハードルが高いかもしれないので、既存のイベントの中で実施するプログラムを有料化したり、物販も併せて行うなど、小規模でもできることから取り組んでほしい。